

特集 駐日インド大使スピーチ



去る十一月二十三日、東京セン

ターにおけるババ様の御降誕祭に、駐日インド大使、マニラルトゥリパティ (Mani Lal Tripathi) 閣下を来賓としてお招きしました。トゥリパティ

氏はインドのオリッサ州出身で、デリー大学をご卒業後、一九七〇年にインド外務省に入省され、ルーマニア、モーリシャス、バングラデシュの大使を歴任されました。ご夫人も外交官で、現在、カナダ大使をされています。ここで、トゥリパティ氏のスピーチを抜粋してご紹介いたします。

◇ ◇ ◇

親愛なる兄弟姉妹の皆様、私は日本に赴任して来たばかりで、まだ日本語が話せませんがどうぞお許しください。しかしながら、神の道に、また愛の道において、言語は問題にならないことでしょう。親愛なる姉妹兄弟の皆様、今日

はババ様の七十八回目の降誕祭を祝うために集まりました。このような吉祥の日に、皆さんと一緒に祈りをささげることができまことに、また、ご挨拶申し上げられることを光栄に思います。

インドは幸運に恵まれており、古来より神の化身や聖人、偉人が降臨され、人類に英知を与えてきました。人類始まって以来、真理の探究に関する、そのような神の化身や聖者の支援は計り知れないものです。さまざまな信仰がありますが、ゴールは一つであり目的は一つです。徳のある、平安と愛に満ちた人生を送りなさいということが、ババ様の教えの基本です。

ババ様の御言葉をお借りして、あるべき理想をお話しします。さまざまな信仰が同時に発展すべきです。パジャンがすべての国で、自国の言葉で歌われることをババ様は好んでおられます。それが理想です。他の信仰を尊重して一体性が守られれば、すべての信仰は同時に栄えることができます。世界の現状においてババ様の教えは非常に大事です。世界中で起きている、多くの人々が犠牲となっている宗教や国家、民族間の争いを解決するには、一体性が非常に大切であるということです。

私は幸運にも、インドの総領事をしておりました一九九八年の十月に、インド洋にあるモーリシャスという国の総理大臣を、ババ様のもとへご案内する機会に恵まれました。そのおりにインタビュールームで起きた一生忘れられないのできない体験をご紹介します。そのときのスワミの優しさ、そして愛に溢れる慈悲深い御姿は今でも忘れられません。

その場には、総理大臣と一緒に大勢の方がいらつしやいました。ババ様は各自を公平に迎え入れてくださいました。グループの中に、インドのハイデラバード出身の婦人がいました。その婦人はアフリカのモーリシャスの人と結婚して、ご夫婦でその部屋におりました。ババ様はそのご婦人にこのようにおつしやいました。「私はあなたに一九七三年の十月二十一日に会いましたよ」。それは、私たちがアシラムに行った一九九八年のちょうど二十五年前にあたりました。彼女はババ様にお会いしていたことを忘れていました。ババ様は彼女に、「私はあなたにハイデラバードで会いましたよ」とおつしやいました。彼女はすぐに思い出し、「はい、そうです。あなたは、一九七三年にハイデラバードにいらつしやいました」と答えました。

そのご婦人がババ様に初めてお会いした二十五年前には、彼女はまだ十代の少女でした。そのときハイデラバードにはババ様の祝福を得るために大勢の方が集まっております。彼女はたったの五秒ほどしかババ様の御前にいることができなかったそうです。その後、ご婦人はババ様にお会いする機会が無かったにもかかわらず、ババ様は二十五年たった成長し大人になった彼女のことを覚えていただけではなく、結婚し、子どもを生み、今はモーリシャスに住んでいる彼女のすべてをご存知だったのです。これは私が生涯忘れられないのできない驚くべき事実であり、ババ様に初めてお会いしたときの出来事です。

姉妹兄弟の皆様、ババ様はインドの霊性の代表です。心の平安の象徴であり、無私の愛の化身であります。そのような神様のご降誕祭を祝うために、ここ(サイセンター)に来ることができ、そして皆さんとサイの愛を分かち合えたことは光栄であります。ババ様に、よき思いをささげましょう。そして、ババ様のご健康とご長寿をお祈りいたします。どうぞ皆様、一緒に日印友好にご協力ください。そして、一緒にババ様の仕事をしてまいります。